

「学校生活に関するアンケート(アセス)」実施状況(令和元年度 2 学期)

1 対象者数

		児童生徒在籍数	実施数	実施率
小学校	3年	2,396人	2,382人	99.4%
	4年	2,435人	2,420人	99.4%
	5年	2,401人	2,386人	99.4%
	6年	2,452人	2,436人	99.3%
中学校	1年	2,306人	2,267人	98.3%
	2年	2,299人	2,242人	97.5%
	3年	2,298人	2,224人	96.8%
計		16,587人	16,357人	98.6%

2 実施後の対応

		事後対応の内容	小学校	中学校
①	学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて学年で情報共有できている。		100%	100%
②	学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて個別支援をしている。		100%	100%
③	非侵害的関係の値が要支援の子どもについて確認をしている。		100%	100%

3 個人の適応状態の変容(人) ※生活満足感のレベルに注目して

		要支援レベル1		要支援レベル2		要支援レベル3		1回目が要支援レベル1の児童生徒の2回目の状況	
		1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	好転	変化なし
小学校	3年	15人	7人	86人	90人	200人	209人	13人	2人
	4年	16人	17人	102人	112人	178人	148人	9人	7人
	5年	7人	12人	56人	66人	120人	116人	6人	1人
	6年	12人	25人	71人	92人	183人	170人	8人	4人
中学校	1年	9人	7人	51人	65人	115人	97人	7人	2人
	2年	5人	3人	57人	63人	121人	128人	4人	1人
	3年	2人	3人	74人	65人	115人	120人	2人	0人

要支援レベル1…対人関係、学習ともに要支援レベルでかつ生活満足感も低い児童生徒

要支援レベル2…対人関係、学習のどちらかが要支援レベルでかつ生活満足感も低い児童生徒

要支援レベル3…対人関係、学習は適応領域だが、生活満足感が低い児童生徒

4 支援の必要な子どもへの具体的ななかかわり事例

(1) 担任による学習面での支援

- できるだけ肯定的な言葉かけを増やすように努め、端的な言葉かけにすることで、指示が通りやすくなり、攻撃的な面が減って、穏やかで和やかに過ごすことが増えてきた。
- 担任が空いた時間を見つけてはマンツーマン指導を増やし、できたことを意図的にほめるようにしている。この効果もあり、最近では自尊感情の高まりを感じている。
- 学級担任は授業中のつぶやきを意識してとらえ、授業に生かす発言として本人の良さを生かすように努めている。本人を褒め、発言や行動を肯定的に評価することで、自尊感情を高められるように努めている。
- 保護者と相談し、本人の状況について情報共有を図り、対応策として家庭で見守っていただくとともに、宿題の量を減らすなど、個別の支援を講じた結果、宿題は丁寧に取り組み

るようになった。隣の席には手本となる児童を配置し、担任の支援を得られやすい席にしたことで、自分の思いを言えるようになり、不安感が減ってきている。同時に通級指導教室の利用や算数のフォロー学習などの支援も行っている。

(2) 担任による生活面での支援

- 友達とトラブルがあったとき、状況を教師が聞き取って、本人に分かりやすく説明し、誤解をなくすことで、人との関りをスムーズにしている。否定的な発言をしてしまうときなどは、本人の気持ちを聞きつつ、肯定的な捉え方ができるように支援している。
- 苦手意識を持っている本人の考えを表現する場面を授業などで設定して、少しでも出来たら認め、自己肯定感を高めるようにしている。お楽しみ会などクラス全員で楽しむ活動を設定し、他の児童との交流を増やすことで、安心して友人関係を築けるようにしている。
- 教師による普段の見立てとアセスの結果では大きく差異があったが、結果をもとに原因を考えることで、否定的なもの見方が認められたため、本人の活動に対し、自己肯定感が高められるような声掛けを心掛けている。

(3) チームによる支援

- 学年内で情報共有をしながら、担任を中心に見守りを続けるとともにＳＣに相談に乗ってもらっている。
- 管理職・学年・その他でケース会議を持ち、担任が中心となることができる手立てについて考え、それに基づいて、粘り強く対応している。
- 学級担任や学年教員だけでなく、養護教諭のサポートを受け、体調が悪い時などは保健室に行きやすい状況が作れている。また、適切に対応できるように保健室との情報共有は密に行うようにしている。多くの教員が関り、精神的なサポートを行っている。

5 非侵害的関係の値が低い(40未満)の児童・生徒について

	小学校				中学校		
	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
人数	83人	68人	121人	113人	47人	50人	43人

6 工夫・成果・課題

- 学力面で課題があると感じていることから、次年度に向けて、学力向上に繋がる手立てを考えている。まずは、学力向上に向け、自尊感情の高まりを目指したい。その点においてアセスを一つの指標として活用している。
- 学年・管理職その他関係職員間でケース会議を持ち、担任が中心にできる手立てについて考えている。また、心の相談アンケートとも合わせて、検討を行っている。

7 評価

各校への聞き取りから、各校ともアセスの結果をもとにケース会議を開くなど、情報を共有し、チームで具体的な支援の方法を考え対応していることがわかる。年2回アセスを実施したことで、定期的にアセスメントを行うことは、改めて児童・生徒からのサインに対し、早期発見・早期対応につながっていると捉えることができる。次年度以降も同様に取組を継続したい。又、アセスの結果を基に学級全体へのアプローチ等のプランを検討し、実際に運用していくことで、その成否を確認しながらPDCAサイクルを回していけるよう、支援の在り方を検討していきたい。